

令和5年度 教職実践研究フォーラム 2024年3月2日



今年度は、現職教員学生12名と学部卒学生11名の計23名の実践研究報告を5つの分科会に分かれて実施しました。県内外から100名を超えるお申し込みをいただき、対面とオンラインを併用して開催しました。

参加者からは「実践と深い分析、現場にとって非常にありがたい発表ばかりでした。本校でも取り入れたいことがいくつかありました。」「現職の先生方が研究された実践の報告は、現場での困り感と合致していて、とても興味深く聞けました。」といったメッセージをいただきました。



離任の挨拶

「教育学研究科を離れるにあたって」

私が教職大学院の設置申請の当初から関わることとなったのは、教育実践現場に近い感覚の持ち主だったからだと思います。もちろん、大学教員として専門的な教育理論（身体論を基盤としたもの）を堅持していましたが、附属学校の先生方の実践的な取り組みに心底共感し、それを讃え、時には貢献できる関わりを持ってきました。それゆえに、力のある附属学校の先生方に多くを教えてもらいました。今でも感謝しきれません。

教職大学院担当となったからには時代のニーズを先取りするような授業をしなければならない、と新たな学びを積み重ねました。もちろん、多くの教科の論文や書籍を手にしたのですが、一番効果があったのは、NITSの遠隔講座の受講でした。そこで出会った若々しい先生方の論文や本から学び、大学院の授業に活かしてきました。ぜひ皆さんも常に新しい視野を開く努力を重ねてください。皆さんの大いなる発展を祈念しています。



野崎 武司

「教育学部を離れるにあたって」

香川大学に赴任して早3年経つのかと時が過ぎる早さを身に染みて感じております。この3年間、教師になることを夢見て熱心に学ぶ学生さんや、真摯に学生に向き合い育成に励む先生方のお姿から、改めて教育とは素晴らしいものであることを思い出させていただきました。教育とは本来、夢や理想を忘れてはならないものであり、子どもたちの笑顔のために教師も共に楽しみながら取り組んでいくものであったという当たり前のことを思い出しました。

3年前の私は、そんな理想も忘れてしまうぐらい埋没してしまっていたように思います。それが、香川大学で働く機会を得て、本来の教育が持つべき意味を取り戻せたような気がします。4月からは、教育現場で子どもたちや先生方、保護者の方々、地域の方々とは真摯に向き合いながら、夢のある笑顔あふれる学校となるよう努めて参りたいと思います。

この3年間、本当にありがとうございました。今後とも、香川大学との繋がりを大切にしながら頑張っていきたいと思っております。どうぞこれからもよろしくお願い致します。



谷口 弓恵

1年の学びを振り返って 学校力開発コース 高橋 夏子

現職院生

教員はどのように成長するのだろうか。この1年間、ずっと1つのテーマを考え続けた。その過程でこれまでの実践を振り返ったり、校種や職種、世代の違う院生と議論したり、改めて自らの教育観を見つめ直す機会になった。宮崎駿監督は映画作りにおける思いを「この1本で世の中変えようと思ってやんなきゃいけない…変わりゃしないんだけど」と述べたが、教育もすぐに答えが出ることは少ない。教職大学院で学ぶ中で、大学、行政、学校現場、それぞれの場でよりよい教育を目指し、今できることに取り組んでいることを知った。「誰一人取り残さない」ために、「チーム学校」を実現するために、これからも様々な人と繋がっていききたい。

支えられながら考え続けた2年間 授業力開発コース 炭山 あい

学卒院生

教職大学院での2年間は考えることに時間を使うことのできた有意義な日々でした。講義で学んだ理論や実習校の先生方のご指導が、子どもたちへの最適な関わり方を考えるヒントになりました。実習を通して子どもたちと関わる中で、「なぜ自分は教員になりたいのか」「どのような教員になりたいのか」といった教師像について考える機会を持つことができました。子どもたちとの関わり方について自分なりに考える時間を得られたことは、教職大学院ならではの学びであったと思います。周りの先生方や同期の院生に支えてもらい、ときに子どもたちにも助けてもらいながら、教員という職業の魅力を再発見できたことで有意義な時間になりました。教職大学院での学びを今後に活かし、子どもたちのことを考えられる教員になりたいと思います。

教職大学院での1年間でふりかえって 特別支援力開発コース 辻村 加奈

現職院生

教職大学院では、附属特別支援学校、医療機関、療育機関、そして特別支援教室「すばる」での指導実習など、貴重な経験を多くさせていただきました。実習では、学校現場でいるときとは違った視点で見たり、考えたりすることができ、視野が広がるとともに、特別支援教育という専門性に特化した見方、考え方を学ぶことができました。また、「学んだことをどのように現場で活かすことができるのか」と院生同士で対話を繰り返し、学びの深まりを感じるとともに、学ぶ楽しさも実感できました。

学校現場に戻った際は、大学院で学んだ知識、見方、考え方を活かしながら、「学び続ける教師」であることを大切に、教育活動に取り組んでいきたいと思います。

「教員研修の高度化に資するモデル開発」の推進



香川大学教職大学院教員研修高度化推進室では、文部科学省の委託を受けて「教員研修の高度化に資するモデル開発」事業に取り組んでいます。香川県教育委員会や高松市教育委員会と連携・協力しながら、「令和の日本型学校教育」を担う香川県の教員の資質・能力の向上に資するため、「香川型研修奨励システムの構築 - 教員と校長の1on1 対話支援プロセスの最適化を中核として -」をモデル開発テーマに掲げて進めてきました。

開発した「教員と校長の1on1対話支援ツール」には、教員と校長の面談日程の調整や、事前アセスメントによって伸ばしたい資質能力がグラフ化されるなどの機能が備わっています。これらのデータを基に面談を実施することができ、管理職が教員への関わり方を振り返る際にも活用できます。また、研修受講履歴記録から教員のニーズに応じた研修奨励プロセスの最適化も目指しています。

※ 下の教職大学院HPにある「香川型研修奨励システム」のコーナーに、支援ツールの操作方法等を掲載しています。

